

令和5年度事業計画

(2023年1月1日より12月31日まで)

事業運営の基本方針

建築を含めた文化全般に対する世間の興味と関心を高め、建築文化の発展に貢献することを目的とし、4つのカテゴリの中から展覧会を企画する。ギャラリーでの展覧会会期中に、シンポジウム、講演会、ワークショップ等を開催するとともに、他の公益法人、機関等とも連携し、広範にわたり情報文化発信を行う。

1. 公益目的事業

(1) 展示事業 (定款 第4条第1号～第3号)

① 建築文化及び関連する支援活動

ア レーモンド夫妻と吉村順三展—生活の芸術 展

内 容 戦前日本に渡り、日本の建築の中に潜む生活の芸術と伝統的な建築技術の美しさに感銘を受けたアントニン・レーモンドとその夫人のノエミ・レーモンド。レーモンドに招聘されてアメリカで生活し、レーモンド夫妻の建築思想に触れ、帰国後もその根幹を継承し、独自のモダニズム建築を確立させる吉村順三。師弟でもあり、またお互いにパートナーとして影響し合った、二人の建築家の戦前戦後の40年にわたる活動を追う。

また、レーモンドが晩年暮らしたアメリカのニューホープの保存活動をする写真家の、レーモンド夫妻の孫であるシャーロット・レーモンドが撮影した写真により現存するレーモンド作品と吉村作品も紹介する。

期 間 2023年12月15日から2024年3月21日 (予定)

方 法 レーモンドが設計した日本の建築群に見られる日本の伝統建築の影響や、吉村がアメリカのレーモンドファームで過ごした際に、レーモンドの影響が見られる資料を「写真」「図面」「アルバム」や「スケッチ」と共に紹介する。

② 教育普及活動展

イ 月で暮らそう、月であそぼう 重力1/6のワンダーランド展

内 容 全体監修に向井千秋氏を招聘し、未来を担うジュニアたち(α世代)の月での暮らしの衣食住+身体をテーマに宇宙への興味・関心・好奇心を募り、それぞれの分野で子どもたちのアイデアを募る。ワークショップを通じて、専門家がサポートし、子どものアイデアの実現を図る。完成したアイデアは展覧会を通して広く発信し、来館者と共有、共感する機会とする。2040年には一般の人が月にいくことが想定される現在において、子ども達の自由な発想力を育む。

期 間 2022年12月10日から2023年3月2日

方 法 9歳から18歳のジュニア世代を開催前9か月の期間をかけワークショップを行い月での暮らし「衣食住+身体」を想像し、宇宙ヘルメット、月暮らしのショートムービー、宇宙でのご馳走アイデア、宇宙体操などを専門家のサポートを得ながら考え会場で発表する。

③ 時代を反映したトピックス展

ウ 百の診療所よりも一本の用水路を 医者・用水路を拓く、中村哲の挑戦 展

内 容 医師としてアフガニスタンに赴任していた中村哲は、「百の診療所よりも一本の用水路」の有用性を説き、16年以上の歳月をかけてクナール川から用水路を引き、干ばつで砂漠化した台地に緑を蘇らせる偉業を成し

遂げた。本展では、中村哲のその偉業を成し遂げるまでの道のりと、その体験を通して、人間がどのように自然と向き合うべきかという問いを、中村の人生を掛けた事業を通して考えたい。

期 間 2023年3月17日から6月22日(仮)
方 法 ペシワール会の協力を得て、中村の残した、用水路建設のための資料、写真、動画の他、意志を継ぎ活動を続ける関係者へのインタビューを紹介する。

エ 本のある風景 ―公立図書館に起きている変化と可能性― 展

内 容 図書館は本や情報を無料で貸し出すほかに、調査研究機能を有する施設もあるが、主に「情報のハブ」としての機能を担ってきた。近年、その役割は「地域づくりのハブ」へと拡大し、人と人、組織と組織の結節点としての役割を担う事例も増え、欧米の顕著な活動成果が伝えられている。公共図書館が市民社会における情報インフラとして果たすべき役割とは…。実践と理念が交錯する欧米の事例、日本での意欲的な取り組みを紹介しながら、公器としての図書館の役割、可能性、そして建築としての価値について考える

期 間 2023年9月21日から11月22日(仮)
方 法 地域へ開かれ、機能を拡張する図書館を数か所ピックアップし、その役割を、歴史、機能、建築、今後の可能性等を紹介し展示する。

④ 現代アート展

オ 川俣 正 - テトラハウス 326 ドキュメント - 展

内 容 川俣正は、芸大在学中からギャラリーや公的美術空間などでの立て続けの発表を経て、1982年のベニス・ビエンナーレ日本館での木材によるインスタレーションを発表するなど一気に国際舞台に躍り出た。しかし帰国後には一転して、札幌のテトラ型個人住宅をはじめとした、アパートメントとプライベートハウスに木材をインスタレーションする制作発表を展開する。家屋や建築物の歴史性や地域性や様々な問題をも制作に取り込んでいる。2023年は、これらのプロジェクトを含めた『総括・資料集』の刊行が予定されている。本展は、現代アート史上でもエポックとなったテトラハウスへのオマージュとして、GA4で再現を試みる。

期 間 2023年7月7日から9月14日
方 法 作品のマケット、ドキュメント写真、資料などを展示し、独創的な空間を体感してもらう。また、作家のレクチャーや対談等を通じて現代アートの魅力を知る機会とする。

(2) シンポジウム・ワークショップ (定款 第4条第4号)

文化及び芸術に関するシンポジウム、セミナー等の企画、誘致及び開催
ア～オの展示会関係として計画している。

(3) 巡回展・アウトリーチ (定款 第4条第7号)

この財団の目的を達成するために必要な事業

ア 裏磐梯高原ホテル企画1「発酵と暮らし

―一人も海も土も森も…すべてはつながっている― 展

内 容 日本人の暮らしに欠かせない食品である醤油やみそに注目し、「発酵」をキーワードに目に見えない微生物の働きや、人と「発酵」とのつながりを見つめ直す。伝統的な醤油づくりの木桶を復活させる小豆島のプロジェクト、有機農業やオーガニック給食への取り組みなどを映像にて紹介。

期 間 2023年2月～3月

- 場 所 裏磐梯高原ホテル
- イ 裏磐梯高原ホテル企画 2
- 「百の診療所よりも一本の用水路を 医者・用水路を拓く、中村哲の挑戦」展（仮）
- 内 容 医師としてアフガニスタンに赴任していた中村哲が、人々の命を救うためには、まずは生活の基盤を整備することの有用性を説き、自らが先端に立ち、白衣をショベルカーに変え、16年以上の歳月をかけてクナール川から用水路を引き、干ばつで砂漠化した台地に緑を蘇らせる偉業を成し遂げる。その業績を紹介する企画。
- 期 間 2023年7月～9月（予定）
- 場 所 裏磐梯高原ホテル

(4) 芸術文化活動拠点提供（定款 第4条第5号）

建築及び芸術文化の表現活動拠点の提供

- ア 東京都建築士会 「住宅課題賞」企画展
- 内 容 関東エリアの建築学部の卒業制作の優秀作品の展示
- 期 間 2023年11月17日から年11月30日（予定）
- 方 法 資料展示、パネルと模型資料による解説。公開審査による講評会を行う。

(5) 調査研究及び資料収集（定款 第4条第6号）

建築文化に関する調査研究及び資料収集

- ア 過年度展示事業のアーカイブ化及び後年度展示事業の調査研究
- 内 容 過去の活動記録の整備次年度以降の展示事業について調査研究をする。
- 期 間 2023年1月1日から2023年12月31日
- イ 企画・出版・教育・広報事業の調査研究
- 内 容 企画コンテンツの出版化について調査研究をする。
- 期 間 2023年1月1日から2023年12月31日

3. 法人の管理運営

- ①内部統制システムの整備推進
- ②長期将来ビジョン構想の推進
- ③展示予算管理システムの運用

以上